

1. Bangladesh 繊維産業を取り巻く状況

①縫製工場の賃金支払い状況

10/25、ダッカの BGMEA 事務所での記者会見で、Bangladesh 衣料メーカー及び輸出協会のチーフのシャフイウル・イスラム・モイウッディンは、「資金問題のあった衣料工場の大部分は、10月末のイード・ウル・アザの前までに労働者たちに賃金を支払った。600の工場のうち572の工場が、既にこの月のすべての給料とボーナスの支払いを済ませ、残りの工場も明日までには済ませるであろう」と語った。なお、BGMEA のリーダーたちはいかなる混乱も避けるために団体のメンバーではない500の中小企業経営者たちにも、工場で働いている労働者たちに予定通りの支払いが確実になされるように努力しているという。

モヒウッディンはさらに、「詐欺疑惑で現在トップが逮捕され活動停止状態のホールマークグループの1,700人の従業員たちにも貿易団体と協力して、総額約1億タカ相当の支払いを確実にする」と述べた。「もし、これらの措置を取らず、労働者が騒動を起こし、欧米からの契約がなくなってしまうと、インドが世界衣料市場に手ごわい相手として登場してきたので、Bangladesh はかなりの痛手となるであろうと思われる。その上ミャンマーも、多くの投資家たちが、数十年の軍政権が続いた後のリフォーム中である繊維衣料部門に大金を注いでいるので、Bangladesh のとって強敵である」と、モヒウッディンは続けた。

②GAP の動向

10月下旬、Bangladesh の大手衣料業者であるハミン・グループの AK.アザド社長は、「アメリカの衣服巨大小売店 GAP の国内 GAP のシニア副社長ボビー・シルテンが、今後、毎年30%ずつ Bangladesh からの購入を増やしていくために、Bangladesh を訪れる予定である」と語り、「現在、GAP は数億ドルに値する高級衣料を Bangladesh から毎年購入している」と、彼は続けて言った。

GAP の関係者は、「約束された納期通りに、増えただけの衣料を輸送することが確実にできる能力があるかどうかを確かめたい」と話した。Bangladesh 商工会議所の会長でもあるアザド社長は、「シルテンは、政府高官とも会い、労働争議や工場へのガス電気の配給が不足していることなどに関して話すと思われる」と語り、また「労働争議が起こらないように、より高い賃金を経営者たちに求めている」と言った。

③テスコの動向

Bangladesh の既製服部門を援助するために、ロンドンを基盤にしている有名なアパレルスーパーマーケットのテスコとイギリス政府の国際開発局(DID)が、共同でダッカにアパレル技術財団 (ASF) を設立した。ASF は2015年までに Bangladesh の25万人の労働者たちの生活を向上させるために、100以上ある工場のオーナー、マネージャーそして労働者を訓練することを計画している。Bangladesh 衣料メーカー及び輸出協会の副会長シディクール・ラハマンは、「基本的に ASF は、それぞれの有名な衣料工場における、中級レベルのマネジメントオフィサーを訓練していくことを目標にしている」と語った。

テスコの会社法律関係の専務理事ダイム・ルーシー・ネビル・ロルフは、ダッカのウットラでの開会の際に、「Bangladesh 産業の長期にわたる競争性、安定性を確立する ASF の主な目的である。同時に生産性や労働条件の向上の方法を示して生きたいと考えているし、オーナーや役員労働者を管理する技術を向上させ、倫理的な指導や生産性を高めるための、新しい生産技術を開発する訓練を行うことにしている。ASF は既にテストプログラムを開始し、労働者の長い労働時間を減らし、生産性に応じたボーナスを与え、新入りの労働者と二人一組になり指導していくシステムの実行を開始している。財団のプログラムには労働環境を持続的に向上させることも含まれている。ASF はスマートで持続的なビジネスソリューションである」と、述べた。「財団の初期投資は48万ドルと推定される」とダッカのイギリスハイコミッションの関係者は語った。

④最近の米国の対応

在ダッカの米国大使:ダン・W.モゼナは、商工会議所 (FBCCI) の外国投資部門が毎月市内のホテルで行うランチ会議のチーフゲストとして、「Bangladesh は米国市場で優遇処置 (GSP) を得たいならば、労働条件や彼らの権利に関する問題をもっと見直すべきである。われわれは、Bangladesh の労働環境や労働者の権利が一向に改善されないことに、不満を持っており、GSP 優遇に関する書簡にマイナス信号をワシントンに送った。Bangladesh の GSP 優遇に対

する米国の決定は、すでに5年間も延期されており、これば米国史上最長である」と、演説をした。また「現在のバングラデシュと米国の貿易関係は、以前にもなくともよくなっている。ここバングラデシュでの私の任務は両国の関係をより強いものにするのであり、私は現在の関係を大いに歓迎している。バングラデシュは地域貿易を育てる場と見ている。技術面に投資する可能性のある場所である」と大使は続けて述べた。

彼は「わが国の外務大臣ヒラリー・クリントンとバングラデシュ外務大臣ディプー・モニは、二国間の貿易、投資、安全向上に対する協力ダイアログに署名した。バングラデシュの全体的な成功に関して、医薬品、皮、ジュート、農業製品部門などは成長が目覚ましいので海外市場に名を響かせるだろう。バングラデシュの農業改革のおかげで、バングラデシュは現在、自給持続できるようになった。バングラデシュは海上国境権利も安全を確保している」と述べた。FBCCI 会長スエド・エルシャド・アハメドは彼の歓迎スピーチの中で、「米国とバングラデシュの貿易関係はすばらしいものである」と述べた。米国はバングラデシュでの最大の投資国である。

⑤輸出と繊維

2012年度第1四半期では、新しい市場への輸出の増加が見えた。これまでの市場で経済危機にさらされていた部門には、これは明るい兆しである。11の新しい出荷先を見てみると、第1四半期で5億2761万ドル相当になっている。輸出推進委員会のデータによると、昨年度の4億1012万ドルから28.6%上昇している。2007年の経済危機の襲来から、バングラデシュはアメリカ、ヨーロッパ連合、カナダなどの伝統的な輸出先への輸出の減少を相殺するために、新しい輸出先を探し始めた。オーストラリア、ブラジル、チリ、インド、日本、韓国、中国、メキシコ、ロシア、南アフリカ及びトルコなどは有望な市場と見られている。そしてマレーシア、ニュージーランド、ノルウェー、サウジアラビア、タイと続く。新市場のすべての輸出のうち、織物アイテムが31%となり、2億8061万ドルと上昇している。中でもニットウェアは2億4700万ドルで昨年よりも26%上昇している。

バングラデシュ衣料メーカー及び輸出協会副会長のファルク・ハッサン、「バングラデシュは、中国から欧州市場を奪い取るような生産の増加を通して、その競争力を増さなくてはならない。中国は今生産コストの上昇で不安定な状態にある。バングラデシュが欧州でNo. 1になれる。もしEU 負債危機が長く続いても、われわれが開発した新しい輸出先では、うまく貿易を続けていくだろう」と言った。

⑥テキスタイル・フェア

国内テキスタイル産業の最新開発を展示する「テックスバングラ-2012」が、11月27日から3日間、市内で開催される。バングラデシュ繊維紡績協会(BTMA)の傘下の繊維紡績24工場が集まり、展示会場に40ブースを構え、そこに製品を展示すると主催者は語った。11月30日には、ファッションショーやカルチャーイベントもボンゴボンドウー・国際会議センター(BICC)で開催される。そこには財務大臣もチーフゲストとして出席する。

現在、国内の繊維紡績工場から90%の糸と35%の生地が、輸出向けの国内衣料品製造工場に出荷されている。2011会計年度の201億3000万ドル相当の衣料品輸出のうち国内の紡績産業の貢献は、まだ90億ドルであった。バングラデシュ衣料品製造工場の未来は、これらの紡績産業の育成にかかっている。

2. 政府が輸出奨励金を支給

11月、バングラデシュ政府は60億タカ(約60億円)の現金を奨励金として、輸出業者に支払った。国内のジュートとジュート製品輸出業者は、8億7500万タカを受け取った。残りの輸出業者が51億2500万タカを受け取るようになっていく。現会計年度の予算では、合計240億タカ(約240億円)の奨励金が、17の輸出業者に配分されることになっている。政府は主な輸出工業製品が、ユーロゾーンやアメリカでの経済崩壊で打撃を受けており、それらの企業の競争力を回復させるために、現金奨励金を率先して提供している。

2011年度では約19の輸出部門がこのような便宜を受けていた。これらのうち、仕上げ済みの革製品は4%、外皮には3%、自転車15%そして鶏肉アイテム15%などが主なものであった。2012年度は、国内繊維と船輸出部門が5%、ジュート商品、海老、その他の魚やライトエンジニアリング、ペットボトルフレックスなどは10%、農業ベース農業加工製品、ジャガイモ、10%、精肉は20%、骨塵輸出業者は15%、アメリカ、カナダ、ヨーロッパ連合以外の新しい市場向けの繊維輸出業者は2%の現金奨励金を受け取った。

3. 日本政府の援助計画

「日本政府はバングラデシュ、ベトナム、中国を含めてアジアの国々の工業化のために大型の投資をすることを計画している。バングラデシュは日本からの投資を優先的に得るであろう」と、日本大使:佐渡島志郎氏は、ノウシンディのダングで、バングラデシュ最初の民間部門インランド・コンテナターミナルのサイトを訪れた際、それをほのめかした。

佐渡島日本大使は、JICA の代表や日本大使館の開発協力及び経済課のカウンセラーとともに訪れていた。日本の使節団は、日本政府がこの工業地帯のため、どのようなサポートでも提供することを地元の会社に保証した。佐渡島日本大使は、JICA と日本貿易振興会(JETRO)に、「優先的にこの工業地帯に投資できるように早急に計画すること」を要求した。

AK カン・アンド・カンパニーリミテッドの会長 AK.シャムスウッディン・カンは、「バングラデシュが現在一番必要としているこのプロジェクトに、合弁で事業展開ができるように、日本の使節団を招いた。インランド・コンテナターミナルはこの工業地帯を発展させるために多に役立つであろう」と彼は述べた。地元の国会議員アンワール・アシュラフ・カンは、「インランド・コンテナターミナルは特に北西地方の輸出入製品の運搬に役立つであろう」と語り、「この工業地区は私の選挙区の人々のために直接または間接的に役立つであろう」と付け加えた。会社社長のサラウッディン・カセム・カンは、「ノルシンディの工業地帯の建設は、1 万人の人々が就職できる仕事を生み出すであろう」と言った。

4. JICA の支援

国際協力機構(JICA)は中小企業(SMEs)が、中長期の金融市場を開発できるように、41億5000万タカ(約41億円)相当のソフトローンを提供した。中央銀行は既に商業銀行や非銀行金融機構(NBFIs)を通して、国中の中小企業を発展させるために基金の出資を始めた。21の商業銀行と18の NBFIs は、既にバングラデシュ銀行(BB)と個人参加方式金融機関(PFIs)として、新財政基金の出資のため契約を交わした。JICA 主任代表戸田隆夫氏は、「PFI は中小企業の実展のためにより率先的にならなくてはならない」と、地元のホテルで行われた能力形成訓練プログラムの開会式のチーフゲストとしてのスピーチで述べた。中小企業発展のための JICA 協力による金融部門プロジェクトの訓練プログラムは、中央銀行のプロジェクト実行ユニットによって開催された。

JICA 代表は、「中小企業は国の発展に大変重要な役割を果たすであろう」と語った。バングラデシュ銀行の副総裁アブル・クアセムは、「我々は国中の中小企業の実展のために多くの新財政計画を導入した。中小企業は雇用機会を作ることで経済成長促進に貢献してきた。さらに中小企業は貧困緩和にも役立っている」と語った。バングラデシュ銀行の常任理事 AHM カイ・カスルは、「国の民間部門のために、日本は現在融資を用意している」と語り、「このプロジェクトは中小企業が中長期財制限を形成するのに役立つであろう」と付け加えた。バングラデシュ銀行中小企業特別プログラム局の業務部長スカマル・シンハ・チョドリは、「プロジェクトは既にその機能を開始し、首尾よく前進している」と言った。

5. 日本からの投資を求める

国内のトップビジネスリーダーたちは、佐渡島日本大使に、バングラデシュへの日本投資を引き付けるために、協力を求めた。日本の多国籍企業フジフィルムがこのために活動を始めた。人々の生活向上のために、来年の3月、アスタリフトブランドがバングラデシュ市場に初登場する。発表会場で佐渡島日本大使は、「バングラデシュの人々の生活の質を向上させるには日本のブランド・アスタリフト が最適であり、その製品は最高の質を持続させるであろう」と語った。日本は長年にわたり投資、相互均衡貿易、商業関係での友好関係を続け、バングラデシュの親友になっている。

講演の中で FBCCI 会長 AK アザドは、「新しく紹介される製品は高品質製品であるが、高価でもある。アスタリフト・バングラデシュは不当な利益の獲得は避け、多くの人々が購入持続可能にさせるようなよりよい市場を心がけて値段を下げることを要求した。さらに彼は、佐渡島日本大使に、バングラデシュへのより多くの日本投資を求めた。同時に彼はバングラデシュに協力を拡大してくれた佐渡島日本大使に感謝した。それに応えて、「フジフィルムは地球上の人々の生活の質が向上するようにどんな努力でもしていく。われわれはアスタリフトのユニークな製品のラインアップで、世界中の人々が健康と美容を維持できる社会を築き上げるために、80年にわたる研究開発の経験や技術を持っている。来年3月に上陸すれば、バングラデシュで人気のブランドになるだろう」と、フジフィルム側のスピーカーは述べた。

6. 日本投資協議

「バングラデシュでの日本投資を増加するための特別作業班の最初の会議が開かれた」と、11/19、日本大使館が発表した。佐渡島志郎日本大使は、投資委員会の役員議長 MA サマドが議長を勤めた会議に出席した。佐渡島大使は財政規則に則り、もっと簡単な査証手続きと労働許可の必要性を強調した。会議では大使が要請した投資家と彼らの家族に対する査証期間の延長に合意した。基本的には1年間のビザが認められ4年間延長できることになった。佐渡島大使は L/C の適切な実施、送金支払いの規制緩和そして船荷証券の適当な出荷の必要性も強調した。

7. 政府の女性企業家支援

「女性企業家たちは国の経済で偉大な役割を果たしており、工業向けの活動にも大幅にもっと参加することを奨励す

べきである」と、工業省ディリブ・バルアは述べた。さらに彼は、「バングラデシュが中流収入国のステータスを獲得するには、女性の企業参加が大きく必要である」と言った。バルアは1か月にわたるフェア「第6回国際女性中小企業エキスポ2012」の開催式のチーフゲストとして、港町のポロ・グランドで演説した。その中で、中小企業(SME)を推進するために考案中のミルサライ・工業地帯に計画を割り当てるなどのように、女性企業家たちを政府から援助し、もっと工業向けの訓練をするべきであること。またバングラデシュ商工会議所(FBCCI)のビジネスリーダーたちに、引き続き女性企業家を支持し援助するように。さらに銀行にも女性企業家が、担保なしまたは低利子融資が利用できるように」と要請した。

FBCCI 会長 AK アザドは輸出推進委員会(EPB)に、「女性企業家の製品に対して輸出手続きをより簡素化すべきだ。次期 FBCCI 主任にそのような企業家たちが、無料で国内国外の博覧会に参加できるように取り計らうように」要求した。おかげで次回から、300店が参加可能なこのイベントに、女性企業家だけの店舗を100店用意し、新しい女性企業家は無料で店舗を出すことができることとなった。

以上